



署名活動へのご協力 ありがとうございました

去る8月28日、座間警察署交通課様へ「止まれ」の標識・標示の設置および点滅信号の撤去に関する署名を提出いたしました。

この度は、署名活動にご協力いただき、誠にありがとうございました。

第一自治会第二自治会 第三自治会の皆様より、**合計 595 名分**の署名が集まりました。皆様のご理解とご協力に、心より感謝申し上げます。

警察署からは、県内の順番が回り次第、早期に対応していただけるとのお約束をいただいております。

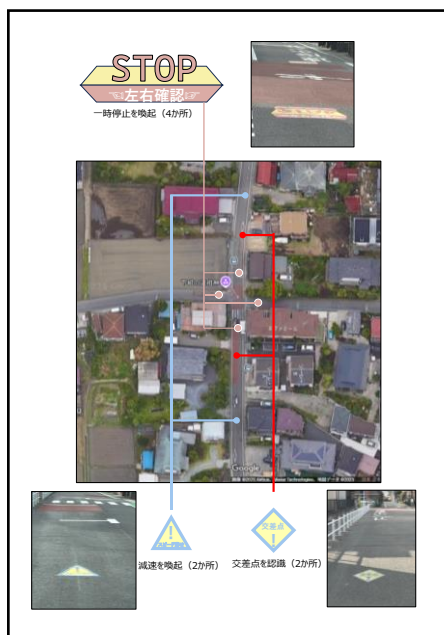


また、点滅信号の撤去に伴い、交差点の認知を補完するため、市生活安全課へ「STOP」などの道路標示による注意喚起の設置を依頼しております。

この標示は、道路交通法で一時停止が定められていない場所にも設置可能で、海老名市下今泉と上郷の境界線道路でも採用されています。

ご興味のある方は、ぜひ一度ご覧になってみてください。(市からは、今期中の設置を予定していただいております。)

さらに、市道路課とも連携し、道路のカラー舗装などの安全対策も進めてまいります。



新田宿南バス停と、ラーメン味来さんの交差点に設置していただきます。

○皆様からのご意見ご質問について

署名活動を通じて、ご意見ご質問をいただきましたので、以下にご回答いたします。

点滅信号の撤去に反対です（1件）

「ラーメン味来さん横の点滅灯は効果があると思います。設置するまえより事故が減っている気がします。撤去には反対です。直線なので、スピードを出す車が多く交差点がある事を知らせるために」

とのご意見をいただきました。

確かにそのような効果もあるかもしれませんが、以下の理由から撤去を進めることとなりました。

認知度の低下

全国的に点滅信号の意味を正しく理解していないドライバーが多く、誤解による事故のリスクが指摘されています。

実際に撤去後に人身事故が減少した事例も報告されています。

参考：西日本新聞の記事



<https://www.nishinippon.co.jp/ite/m/826920/?form=MG0AV3>

参考：読売新聞の記事



<https://www.yomiuri.co.jp/national/20221128-OYT1T50025/>

記事にある通り、点滅信号発祥の地福岡県には数千機残っていますが、千葉県はゼロ、東京都でも一桁の台数です（これは10年前の数字です）我々は見慣れています、全国的に認識しているドライバーは少ないのです。

維持管理の問題

信号機の維持管理には費用がかかり、老朽化した信号機の更新や修理が困難になっています。特に一灯点滅式信号機は、部品の生産が終了しているものもあり、故障しても修理が難しい状況です。

災害時の脆弱性

一本のアームで吊り下げられている構造上、地震などの揺れで倒壊する恐れがあり、落雷などで電力供給が停止すると規制効果が全くなくなるため、災害に弱いとされています。

代替手段の有効性

警察庁は、一時停止の交通規制や標識、カラー舗装などで代替可能な場合は、一灯点滅式信号機の撤去を検討するよう通達しています。実際に、撤去後に一時停止標識などに置き換えた交差点で事故が減少した事例も報告されています。

事故の主原因

新田宿での事故につきましては、バス通りを走行する車両の速度超過ではなく、側道からの急な進入が主な要因であったと考えられます。赤点滅信号側では本来一時停止が求められますが、実際にはそれが十分に守られていない場面も見受けられます。特に、歩行者や自転車の方々にとっては、点滅信号の意味や注意喚起の意図が十分に理解されていないケースが少なく、事故のリスクを高める一因となっている可能性があります。

ラーメン味来さんの交差点の事故が減った訳

点滅信号が本当に事故防止に効果があるのであれば、新田宿南バス停の交差点での事故件数も減少しているはずです。しかし、現実とはなっていません。味来さんの交差点は、過去に多数の事故が発生した危険箇所であり、点滅信号の設置により通常は不可能な「**止まれ**」の標識が、特例として追加されています。そして何より忘れてはならないのは、この交差点には小学校の登下校時に「**子供見守り隊**」が立っているという事実です。彼らの存在こそが、数多くの悲惨な事故を未然に防いでいる最大の要因なのです。

自治会では、今後とも警察や有識者と連携して、事故防止に努めてまいります。

ご理解、ご協力の程、よろしくお願いいたします。